

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校創立以来の教育方針である「質実剛健」「文武両道」を旨とし、自ら学び、自ら考え行動する心豊かでたくましくバランスのとれた、国際社会に貢献する人間力あふれた人材を育成する。

- 1 「守る伝統から創る伝統へ」のキャッチフレーズのもと、古き良き伝統を継承しながら、「グローバル・リーダーズ・ハイスクール(GLHS)」として、地域にねざしつつ、積極的に国際交流活動を行い、国際感覚の育成をめざす。
- 2 生徒の進路実現に向け、大学との連携等を通じて学習活動の充実を図り、コミュニケーション能力、問題解決能力、科学的思考力を育成する。
- 3 生徒の自主性を重んじ、生徒会活動や部活動の活性化を図り、グローバルリーダーとしてふさわしい人格の形成をめざす。

2 中期的目標

1 「確かな学力」の育成と進路実現への支援

(1) 「確かな学力」の定着と学びの深化

ア より高い授業力を求め、研究授業や授業アンケートなどを活用して授業研究を行う。

※ 学校教育自己診断（生徒）における「授業の工夫」に対する肯定率 85%以上を維持する。(R02:91% R03:93% R04:93%)

イ 1人1台端末など ICT 機器を効果的に活用した授業の研究・実践を行う。

※ 学校教育自己診断（教職員）における ICT 機器の活用に関する肯定率 90%以上を維持する。(R02:83% R03:97% R04:100%)

(2) 観点別学習状況の評価に基づいて、評価を指導の改善に生かすという視点を重視し、授業改善を一層進める。

ア 「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を育成するため、「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を推進する。

※ 学校教育自己診断（生徒）における「授業満足度」（畷高の授業は必要な力がつく）の肯定率 90%以上を維持する。(R02:95% R03:95% R04:96%)

イ 探究活動を通じて、「社会に貢献しようとする意識や意欲」「課題発見力」「発信力」「科学的リテラシー」などを育成する。

※ 学校教育自己診断（生徒）による探究チャレンジへの肯定率を 80%以上とする。(R02:75% R03:76% R04:79%)

(3) 生徒が自己の将来像を描き、希望の進路を実現するための指導と支援の充実を図る。

ア 飯盛セミナーや大学研究室訪問など、大学や企業で活躍する社会人から学ぶ機会を設けてキャリア発達を促す。

イ 授業の工夫や自習室の開室などにより、生徒に自学自習で学ぶ習慣を定着させる。

ウ 大学入試の傾向及び生徒の学習状況を分析し、生徒の状況に応じた講習・補習等を行ない、自学自習の効果を向上させる。

※ 学校教育自己診断（生徒）における、「先生は質問によく答えてくれる」の肯定率 95%以上を維持する。(R02:98% R03:98% R04:100%)

※ 第一志望現役合格率 50%以上をめざす。(R02:54% R03:53% R04:52%) 京都大学・大阪大学・神戸大学の合格者合計 70 名。(R02:72 名 R03:82 名 R04:63 名) をめざす。

2 社会に貢献できる「豊かでたくましい人間性」の育成

(1) グローバル社会においてリーダーとして活躍できる資質の育成。

ア 充実した生徒会活動、部活動等により、たくましい人間力を育成する。

※ 部活動の加入率 90%以上を維持する。(R02:98% R03:97% R04:95%)

※ 複数の部活動における近畿大会以上への出場を継続させる (R02:6部 8種目 R03:8部 10種目 R04:10部 12種目が近畿大会以上に出場)

イ 身だしなみ・挨拶・マナー等の指導を徹底するとともに、社会貢献や人権に対する意識の向上を図る。

※ 生徒学校教育自己診断における「挨拶をよくしている」の肯定率 90%以上をめざす。(R02:90% R03:86% R04:79%)

(2) 社会人基礎力となるコミュニケーション能力等の育成。

ア 英語スピーチ大会（如月杯）、2年生の探究チャレンジ発表会（2回）などの取組みを通じて、コミュニケーション能力、主体的に協働しながら課題に取り組む力や表現力の向上を図る。

※ 校外での各種コンクール等への応募数及び入賞数毎年 10 件以上をめざす。(R02:3件 8名 R03:9件 24名 R04:10件 41名)

(3) 国際的な視野を広げ、異文化を理解するため、国際交流活動を充実させる。

ア 台湾、オーストラリア、ドイツ、ベトナム、タイなど海外との交流を活用して、大学や関係機関の協力を得ながら、グローバルリーダーの育成に取り組む。

イ 国際共通言語としての英語が使えるよう、4技能統合型の授業や講習の充実を図り、実用英語力の向上を図る。

※ CEFR での B1 以上の到達率 170 名以上、B2 以上 50 名以上をめざす。(R02: B1:248名 B2 91名 R03 B1:135名 B2:22名 R04: B1:161名 B2:40名)

3 学校力・教員力の向上

(1) 機動力のある組織体制づくり

ア 様々な教育課題に迅速かつ柔軟に対応できるよう、校内の各種会議の連携を密にして情報の共有を図り、組織の機動力を高める。

イ グローバルリーダー育成のための教育活動が更に推進されるよう、組織体制と業務内容について見直しと効果検証を継続的に行う。

ウ 働き方改革の実行により、仕事の負担による健康リスクの減少を図る。

※ 学校教育自己診断（教職員）における「教育活動全般にわたる評価と検証」の肯定率 70%以上を維持する。(R02:57% R03:71% R04:74%)

(2) 研修等による教員力の向上

ア 校内研修を計画的に実施し、本校の教職員として必要な資質・能力の向上を図る。

イ 初任者研修や 10 年経験者研修等を活用し、OJT を通じて教員が相互に影響しあいながら教員力を向上する体制をつくる。

(3) 広報活動の充実による教育力の向上

ア 積極的な広報活動により、本校の特色とアドミッションポリシー（求める生徒像）を発信し、本校で学ぶ意欲の高い志願者を集める。

※ 学校説明会への参加者総数（年間）1,000 名以上を維持する。(R02:1052名 R03:1276名 R04:1844)

(4) 安全で安心な学校生活を送れるよう環境を整備する。

ア 個人情報等の適正な管理を行うとともに、万が一事故が発生した際に迅速かつ的確に対応できる体制を整備する。

イ 支援や指導を要する生徒に対して適切な対応ができるよう保護者や関係機関との連携を強化するとともに、校内の教育相談体制をより一層充実する。

ウ 地震、大雨等の災害や事故等発生時の連絡体制、新型コロナウイルスなど感染症対策の徹底を図り、適切かつ円滑な対応ができるようにする。

エ 障がい等何らかの事情のある生徒が安全で安心な高校生活を送れるよう、支援検討会議を通じて合理的配慮と必要な支援を行う。

※ 学校教育自己診断（教職員）における「支援や配慮を必要とする生徒への体制づくり」の肯定率 70%以上を維持する。(R02:67% R03:79% R04:88%)

(5) 地域に信頼される学校づくりを推進する。

ア 四條畷市等と連携を進め、地域と協働した取組みや小中学校との交流などを積極的に行なう。

イ 部活動や学校行事、探究活動の成果発表など本校の教育活動を通じて、地域貢献に努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]					学校運営協議会からの意見				
問内容		肯定率[%]							
		生徒	保護者	教職員					
(1)	学校の満足度。(保護者:生徒が生き生きしている。)	94.3	98.9	-	【第1回】令和5年7月3日(月) ○学校運営協議会委員出席者5名 (1)保護者からの意見書:なし (2)①「令和4年度学校経営計画及び学校評価」、「令和5年度学校経営計画及び学校評価」、 ・コロナ禍後にあいさつが減り、遅刻が増えた要因は何か⇒寝坊等の理由は変わっていないが、通院生徒等が遅刻としてカウントされている。 ・令和4年度学校経営計画及び学校評価「3学校力・教員力の向上」の数値が伸びている。四條畷市との連携も進めてほしい。 ・ICTの活用が高かったが、どのような内容か⇒授業でのプロジェクトの活用や1人1台端末でのクラスルームの活用などが増えた。 ・日本にある海外施設との交流はあるか⇒奈良先端科学技術大学院大学の留学生に対して、探究活動の発表などを行っている。 ・令和5年度学校経営計画及び学校評価に関して、観点別学習評価について教えてほしい⇒本校は「主体的に学びに向かう姿勢」の評価が高い。今年度から2学年が観点別学習評価になったので、さらに改善していきたい。 ・働き方改革について⇒一斉退庁日の導入など業務の効率化で、時間外勤務は減少しているが、さらに進めていきたい。 (3)1学期の活動に関して。 ・活動の状況を見て、コロナ禍前の日常が戻ってきていると実感した。 (4)スクール・ポリシーについて ・今後の予定等について説明。 【第2回】令和5年11月24日(金) ○学校運営協議会委員出席者6名 (1)保護者からの意見書:なし (2)委員による授業見学。 ・生徒たちが生き生きとしている。 ・いろいろな面で頑張っている。 (3)「令和5年度 取組みの進捗状況について」 ・11月の創立120周年記念式典が素晴らしかった。生徒の司会進行、記念宣言、課題研究口頭発表等、生徒主体でよかった。 ・1人1台端末は使うことが目的ではないので、タブレットの活用研修等の工夫が必要である。 ・不登校について⇒予防と初動が大切である。生徒に寄り添っていく。 ・生徒会や部活動が主体となつての「あいさつ運動」が良い。 ・国際交流参加生徒の男女比や進路との絡みはどうなっているか⇒女生徒が多い。進路選択にも大きく影響している。 ・オーストラリア研修への希望者は多いが、全員参加は無理なのか⇒当初は15名で20名に増加したが、ホームステイとの関係でこれ以上は難しい。 ・SSH第Ⅲ期指定など、先生の負担が大きいので、働き方改革をさらに進めて、時間外勤務を減らしてほしい。 (4)令和5年度使用教科書一覧について ・資料配付 (5)スクールポリシーについて ・原案を承認していただく。 【第3回】令和6年2月22日(木)開催予定 ○学校運営協議会委員出席者4名 (1)保護者からの意見書:なし (2)学校教育自己診断について (3)令和5年度及び令和6年度学校経営計画及び学校評価(案)について ・人権教育についての教員の評価が向上している理由は何か⇒権利や身近な事例から人権教育をしていることが教員の評価向上につながった。 ・生徒が興味を持つような授業とは具体的にどのような授業か⇒分かる授業、考える授業、気づきがある授業の3つが重要ではないか。 ・探究チャレンジの研究テーマのマッチングで余ってしまう生徒はいないか⇒キーワードプロソフトを生徒から出させて、教員側からも働きかけをしている。 ・時間外勤務月80時間以上の教員が多いことについて⇒来年度からは府の取組みとして、部活動方針を遵守させて、時間外勤務の削減を推進していくことになる。 ・時間外勤務の削減策について⇒電話の自動音声対応や全校一斉退庁日の設定などは一定の効果があった。会議を減らすために分掌会議などを時間割に入れることを考える必要がある。 ・有給休暇の取得について⇒増加している。 (4)スクール・ポリシーについて ・特に意見なし				
	暇高は楽しい。	96.3	88.3	-					
(2)	教え方にさまざまな工夫をしている先生は多い。	91.9	-	-					
	興味を感じる授業が多い。	83.9	-	-					
	ペアワークやグループワークなどを授業に取り入れている。	-	-	88.0					
	授業におけるICT機器の活用。	-	-	98.0					
(3)	授業アンケートの結果を教科指導に反映。	-	-	92.0					
	担任以外にも悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる。	84.4	-	94.0					
	学校生活についての先生の指導は納得できる。(教員:理解を得ている)	88.2	95.5	90.0					
	将来の進路や生き方について考える機会がある。	97.0	95.1	92.0					
(4)	生命の大切さや社会のルールについて考える機会がある。	91.3	92.7	-					
	いじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる。(教員:体制が整っている)	95.8	93.2	92.0					
(5)	暇高祭は、楽しく行えるように工夫されている。	97.3	93.9	98.0					
	部活動に積極的に取り組んでいる生徒が多い。	97.3	95.9	90.0					
(6)	本校の探究活動の取組みに満足。	76.5	93.7	96.0					
	本校の国際交流(台湾修学旅行・オーストラリア研修等)の取組みに満足。	94.3	91.0	98.0					
(7)	成績などの内容についてプライバシーが守られている。	95.9	95.8	84.0					
	人権を尊重した指導への取組み。(教員:十分に話し合われている)	-	93.3	84.0					

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 (R4年度値)	自己評価
1 「確かな学力」の育成と進路実現への支援	(1) 「確かな学力」の定着と学びの深化 ア より高い授業力を求めた授業研究 イ 1人1台端末などICT機器を効果的に活用した授業づくり	(1) ア・授業力向上委員会が中心となって、教員の授業力向上を図る。 ・「学ログ」を有効活用して、授業見学・授業公開・研究授業を積極的に行い、生徒の意欲関心を高める授業を実践する。 ・教科横断的な授業見学を活性化する。 イ・1人1台端末など、ICT機器を効果的に活用した授業の研究・実践を行う。	(1) ア・教員の授業観察件数1人平均5回以上 [2.9回] ・授業アンケート全校平均 3.4 以上の維持 [3.48] ・学校教育自己診断(生徒)「興味を感じる授業」の肯定率 80%以上維持する。 [83%] イ・ICT機器の活用率 80%以上の維持 [100%]	(1) ・教員の授業力向上をめざして、授業力向上委員会が中心となり、教員の授業相互見学や研究公開授業に積極的に取り組んだ。来年度も継続して教員の授業力向上に取り組んでいきたい。 ア・教員の授業観察件数1人平均4.3回、目標に達していないものの昨年度に比べて増加した(△) ・授業アンケート全校平均3.53に上昇(◎) ・学校教育自己診断(生徒)「興味を感じる授業」の肯定率は84%に上昇(◎) イ・ICT機器の活用率は98%に微減(○)
	(2) 観点別学習状況の評価の推進による指導と評価の一体化 ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進 イ 探究チャレンジ等による確かな学力の育成 ウ SSH 第Ⅲ期の目標である探究活動の地域への発信をめざす	(2) ア・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進 イ・3年間を5期に分け、それぞれの目標を定め、全生徒を対象にして計画的に探究チャレンジを行う。 ウ・本校の探究活動の成果を地域の高校や中学校へ情報発信する。	(2) ア・アクティブラーニング(AL)の実施率 75%以上 [92%] イ・学校教育自己診断(生徒)「探究チャレンジ」の肯定率 75%以上 [79%] ウ・北河内サイエンスディや探究チャレンジの通年公開授業を発展させる。	(2) ・2学年で新観点別評価を実施するようになり、昨年度の実績に基づいて指導と評価の一体化を図ることができた。今後も情報を共有するとともに、教員研修などを通じて理解を深めていく必要がある。 ア・アクティブラーニング(AL)の実施率は88%に減少(○) イ・学校教育自己診断(生徒)「探究チャレンジ」に関する肯定率は77%に微減(○) ウ・通年公開授業には、中高15校から教員18名が参加(昨年度は3校、3名)(◎)
2 社会に貢献できる「豊かであらまい人間性」の育成	(3) 進路実現の指導と支援 ア 進路指導計画『なわて』の有効活用 イ 習熟度別授業の充実と生徒の意欲向上 ウ 飯盛セミナーなどを通じたキャリア発達の促進 エ 講習・補習等による自学自習の効果の向上	(3) ア・希望する進路実現に向けて、3年間の基礎学力調査『なわて』を有効に活用し、進路指導の見える化を進める。 イ・数学・英語で習熟度別授業を充実させて、生徒の意欲向上を促し、希望する進路の実現につなげる。 ウ・飯盛セミナー、大学研究室訪問を実施する。 エ・適切な課題の設定や自習室の開室などで自学自習の充実を図る。 ・大学入試の変化や生徒の学習状況を分析し、生徒の状況に応じた講習・補習等を行う。	(3) アイ・学校教育自己診断(生徒)「将来の進路や生き方について考える機会」の肯定率 90%以上 [97%] ウ・大学研究室訪問の参加者数 400人以上の維持 [528人] エ・学校教育自己診断(生徒)「先生は質問によく答えてくれる」の肯定率 95%以上 [100%]	(3) ・進路指導計画『なわて』を有効活用し、全学年で体系的な進路指導を実践できた。今後も『なわて』に基づき、生徒の意識を高め、希望する進路の実現を図っていききたい。 アイ・学校教育自己診断(生徒)「将来の進路や生き方について考える機会」の肯定率は97%(○) ウ・大学研究室訪問の参加人数 521名(○) エ・学校教育自己診断(生徒)「先生は質問によく答えてくれる」の肯定率は100%(◎) ※令和4年度GLHS評価審議会総合評価は3年連続でAA(令和5年7月公表)(◎)
	(1) グローバルリーダーとしての資質の育成 ア 生徒会活動、部活動等によるたくましい人間力の育成 イ 身だしなみ・挨拶・マナー等の指導の徹底及び社会貢献や人権に対する意識の向上 (2) コミュニケーション能力等の育成 ア 校内発表会への取組みを通じて、能力の育成を図る (3) 国際交流活動の充実 ア 海外との交流を活用したグローバルリーダーの育成 イ 4技能統合型の授業や講習等による実用英語力の向上	(1) ア・文化祭等の行事や部活動のさらなる充実。 イ・全教員で登校時の生徒指導を行い、生徒の基本的な生活習慣に関する意識を高める。 ・地域清掃などの奉仕活動を継続的に行う。 ・教職員の人権意識向上に取り組み、とりわけSNSでの人権侵害については、教員研修の充実を図り一層の指導を行う。 (2) ア・英語スピーチ大会(如月杯)、探究チャレンジ発表会(2回)などを系統的に実施し、コミュニケーション能力の向上を図る。 (3) ア・コロナ禍の状況を見て、オーストラリア研修に加えて、ベトナムボランティアツアーなどの国際交流を復活させる。 ・台湾、オーストラリア、ベトナム、タイなどの高校生とオンラインでの交流を継続する。 イ・国際交流キャンプ、4技能統合型の英語授業や講習などを通じて、使える英語力を向上させる。	(1) ア・学校教育自己診断(生徒)「畷高祭の工夫」に関する肯定率 90%以上の維持 [98%] ・部活動の加入率 90%以上(96%) イ・年間遅刻者数 1000 以下 [1346 件] ・学校教育自己診断(生徒)「挨拶をよくする」の肯定率 85%以上 [79%] ・学校教育自己診断(教職員)「人権を尊重した指導」への肯定率 60%以上 [65%] (2) ア・学校教育自己診断(生徒)「発表活動のチャンスが多い」の肯定率 85%以上 [96%] ・校外のコンテスト等での入賞 10 件以上 [11 件] (3) ア・海外との交流を活用した課題研究等の実施 5本以上 [2本] イ・CEFRのB1レベル130名、B2レベル20名 [B1 161名、B2 40名]	(1) ・畷高祭や国際交流などの学校行事を予定通り実施できた。特に国際交流は、対面での交流が復活し肯定率が大幅に上昇した。しかし、一方で遅刻や挨拶などでは、コロナ禍の影響が続いており、基本的な生活習慣の確立を徹底していく必要がある。 ア・学校教育自己診断(生徒)「畷高祭の工夫」に関する肯定率は97%に微減(○) ・部活動の加入率 98.9%に増加(◎) イ・年間遅刻者数 1371 件に微増(△) ・学校教育自己診断(生徒)「挨拶をよくする」の肯定率は78%に微減(△) ・学校教育自己診断(教員)「人権を尊重した指導」の肯定率は84%に大幅上昇(◎) (2) ・コンテストやオリンピックなどアウトプット活動への参加が増加した。来年度以降もアウトプットの機会を増やし、生徒の表現力や発信力を高めていきたい。 ア・学校教育自己診断(生徒)「発表活動のチャンスが多い」の肯定率は96%(○) ・校外のコンテスト等での入賞は30件に増加した(◎) (3) ・台湾の台北市立松山中学校が修学旅行で来校し、姉妹校の協定を締結(6月)。オーストラリアのバンダバーグ校が修学旅行で3日間来校(11月)。ベトナム医療ボランティアツアーを実施(12月)。オンラインでの台湾とのペンパルプロジェクトやオーストラリアとのカード交換は継続。 ア・コロナ禍で国際交流ができない中、海外との課題研究等の実施5本(NAIST)(○) イ・CEFRのB1レベルは241名、B2レベルは68名と大幅に増加(◎)
	(1) 機動力のある組織体制 ア ミドルアップダウン型の運営体制づくり イ グローバルリーダー育成のための組織と業務の見直し及び検証	(1) ア・経営企画会議、授業力向上委員会、将来構想検討委員会を通じて課題認識の共有を図り、教職員研修を通じて課題解決に向けてのコンセンサスを作る。 イ・GL部を中心に全校体制で探究チャレンジの指導に取り組み、地域に発信する。	(1) ア・学校教育自己診断(教職員)「各種会議が有効に機能」の肯定率 60%以上 [61%] ・学校教育自己診断(教職員)「教育活動全般の評価と検証」の肯定率 70%以上 [74%] イ・学校教育自己診断(教職員)「探究チャレンジの取組み」の肯定率 80%以上 [98%]	(1) ・SSH第Ⅲ期指定1年目。地域への発信等は増加した。一斉退庁日の実施や会議資料、生徒アンケート等の電子化など、校務運営の効率化が進み、時間外勤務時間数は減少した。来年度も働き方改革を一層進めていく必要がある。 ア・学校教育自己診断(教職員)「各種会議が有効に機能」の肯定率 73%に大幅に上昇(◎) ・学校教育自己診断(教員)「教育活動全般の評価と検証」の肯定率は78%に上昇(◎) イ・学校教育自己診断(教員)「探究活動の取組み」の肯定率は96%に微減(○)

	<p>ウ 働き方改革の実行による仕事の負担リスク減少</p>	<p>ウ・全校一斉退庁日の有効実施や会議等のペーパーレス化など、校務運営の効率化を進める。 ・年次有給休暇の取得を促す。 ・教職員間の情報共有に努め、風通しの良い職場環境を作る。</p>	<p>ウ・全校一斉退庁日の円滑な実施 ・ストレスチェックにおける職場総合健康リスク 90 以下の維持 [83]</p>	<p>ウ・全校一斉退庁日を水曜日に決めて実施。(○) ・ストレスチェックにおける職場総合健康リスクは 83 で、高水準を維持(◎)</p>
<p>3 学校力・教員力の向上</p>	<p>(2) 研修等による教員力の向上 ア 校内研修を計画的実施 イ 法定研修を活用した OJT による教員力の向上 (3) 広報活動の充実による教育力の向上 ア 広報活動による本校の特色とアドミッションポリシーの発信 (4) 安全で安心な学校生活への環境整備 ア 個人情報の適正な管理と事故対応への体制整備 イ 障がい等による支援や指導を要する生徒への適切な対応 ウ 災害や事故等発生時の体制整備、感染症対策の徹底 (5) 地元信頼される学校づくり ア 四條畷市等との連携 イ 部活動や学校行事、探究チャレンジの成果発表などを通じた地域貢献</p>	<p>(2) ア・スキルアップ研修等、校内研修の計画的実施 イ・メンター制度により OJT で初任者、2 年め、10 年め教員の相互育成を図る。 (3) ア・校内・外での学校説明会などで積極的に本校の特色を発信する。 (4) ア・個人情報の適正な管理と事故対応について周知徹底を図る。 イ・障がい等支援が必要な生徒には支援検討会議が中心となって合理的配慮に基づく支援を行う。 ・不登校など配慮が必要な生徒等に対する初期対応を手厚くするとともに、SC との連携を図り、支援検討会議を通じて必要な支援を行う。 ウ・防犯・防災計画、大規模災害時初期対応マニュアル等の内容を周知徹底する。 (5) ア・小中学校への出前授業やオープンラボ等、四條畷市等と交流した取組みを行う。 イ・地域連携企画 in 畷高（北河内サイエンスディや小中学生対象のイベント等）によって本校の教育活動を地域の高校や中学校に広げていく。 ウ・創立 120 周年記念事業の円滑な実施。</p>	<p>(2) ア・年間教職員研修の回数 10 回以上を維持する [13 回] イ・初任者ミーティング等、研修の効果測定を行い、肯定率を 90%以上とする。 [100%] (3) ア・学校説明会への参加者数 1,500 名以上の維持 [1844 名] (4) ア・学校教育自己診断(教員)「個人情報に関する管理システムの確立」に対する肯定率 80%以上の維持 [88%] イ・学校教育自己診断(教員)「支援や配慮」に関する肯定率 80%以上の維持 [88%] ウ・防犯・防災計画を教職員間で共有し、防災避難訓練を充実させる。 (5) ア・小中学校を対象とした取組み及び四條畷市と連携した取組みの増加 [5 種類] イ・地域住民等に向けた取組みの増加 [6 種類] ・北河内サイエンスディなどの地域連携企画の継続</p>	<p>(2) ア・将来構想検討委員会主催の教職員研修 1 回（畷高の入学時、在校 3 年間、卒業時にめざす数値目標と達成するための方策）、スキルアップ研修及び分析検討会 6 回、人権教育研修 3 回、救急講習 1 回など、教職員研修は 11 回実施 (○) イ・初任者ミーティングの肯定率 100% (◎) (3) ・畷高見学会、オープンスクール、畷高説明会を 2 回実施し、多くの中学生、保護者が参加してくれた。また昨年度に始めた母校訪問もさらに活発になり、中学校での出前授業や説明会も増加した。来年度はさらに中学校との連携を活性化していく。 ア・学校説明会への参加者数は昨年度よりも増加し 2481 名 (◎) ・母校訪問数 32 校、1、2 年生参加者 76 名に増加 (R4 は 17 校、41 名) (4) ・支援検討会議による不登校生徒等への支援や配慮など、教育相談体制は一層充実した。不登校に関する予防や初動を徹底するために、来年度以降も教職員研修に力を入れていきたい。 ア・学校教育自己診断(教員)「個人情報に関する管理システムの確立」に対する肯定率は 84%に微減 (○) イ・学校教育自己診断(教員)「支援や配慮」に関する肯定率は 94%に大幅に上昇 (◎) ウ・大東・四條畷消防署を招いての防犯訓点を実施し、防犯・防災計画など危機管理のに関する情報共有の徹底ができた。(○) (5) ・中学生を対象とした北河内探究活動交流会や探究ラボ、小学生対象のスポーツ体験教室とワクワク実験教室、四條畷市主催の発表会への参加、地域清掃などを実施。来年度以降も地域連携を一層進めていきたい。 ア・小中学校を対象とした取組み及び四條畷市と連携した取組みは 10 種類に増加 (◎) イ・地域住民等に向けた取組みは 7 種類に増加 (◎)</p>